

加茂市市制施行50周年記念
 ロシア少年少女民族舞踊アンサンブル
 ラーダスチ



ロシア少年少女民族舞踊アンサンブル
 「ラーダスチ」加茂公演 (10月21日)

お気軽においでください
 市民と市長の「よもやま話」の日

12月27日(月)・午後1時30分から
 時間等については御相談ください。

【受付・問い合わせ】 市役所3階 総務課広報広聴係
 (☎52-0080 内線323)
 までお願いします

主な内容

- 加茂市出身の新知事誕生 ②
- 小池市長市政報告 ③⑬
- ・ 加茂病院産科の即時再開と加茂病院
 全体が廃止されることを阻止するた
 めの署名運動について ③⑬
- 7・13水害義援金を三条市と中之島町に ⑬
- コムソ訪問記・やさしい医学 ⑳㉓
- 加茂の風土記 ㉔



謹んで加茂市出身の
泉田裕彦新潟県知事の御就任を
お慶び申し上げます
大いなる御活躍を
心からお祈りしてやみません

加茂市長

小池清彦



市政報告

加茂市長 小池 清彦

たのであります。

産科は、加茂病院の本丸であります。本丸が崩壊すれば、今後またたく間に、加茂病院全体が廃止されることになるでしょう。

まさに加茂市民の生命が再び重大な危機に直面することになりました。

第二次加茂病院戦争のぼつ発であります。

市民の皆様！

加茂病院産科の即時再開を求め、加茂病院全体が廃止されることを阻止するための署名運動について

平山前知事は、加茂市長に何の協議もなく、去る

十月一日、一方的に県立加茂病院の産科を休診いたしました。

再び署名運動をもって、みんなで立ち上がり、断固として加茂病院産科を守り抜いて、加茂病院全体が廃止に追い込まれることを阻止し、併せて、産科の個室化を実現しましょう！

新潟大学医学部産婦人科のトップが、「加茂病院産科の診療をお続けになるのであれば、あらゆる手だてを講じて協力する」とおっしゃったのを、平山前

以下に、泉田新知事へ提出予定の要請書、このたびの御署名のお願い書、加茂市長の二度の抗議声明、新潟県知事選挙候補者への質問書と各候補者からの回答を掲載いたします。

県立加茂病院産科の即時再開を求める要請書

このたびは、新潟県知事に御当選おめでとうございます。御活躍を心からお祈り申し上げます。さて、平山前知事は、加茂市長に何の協議もなく、去る十月一日、一方的に県立加茂病院の産科を休診いたしました。

その結果、加茂・田上地域に産科病院は一つもなくなり、この地域の住民の安全と安心は、大きく脅かされることになりました。

少子化は、わが国における最大の問題であり、国も県も少子化問題に最も真剣に取り組まなければならないときに、平山前知事は、冷酷にも、こともあろうにみずからの退職の道づれに、一方的に加茂病院産科を閉鎖したのであります。

去る九月二十一日、加茂市長が平山前知事に電話で加茂病院産科の休診を行わないでいただきたいとお願いした際、前知事は、「新潟大学医学部が医師を出さないの、診療を続けることができない。」と答えました。

ところが、産科の休診後、加茂市長が新大医学部の関係のトップの方々にお会いしたところ、新潟大学の産婦人科のトップは、県に対し、「加茂病院の産科の診療をお続けになるのであれば、あらゆる手だてを講じて協力する。」とおっしゃったのを、県が断ったとのことでありました。

即ち、新大医学部は、緊急事態における対応を万全にするため、がんセンターと加茂病院の産科を一体として運営することとし、がんセンターの産婦人科に五人の医師を常勤させ、そのうち三人が加茂病院の産科に毎日二十四時間にわたり、交替で勤務して来たところ、このたび医師のやりくりの関係で、がんセンター産婦人科常勤が四人となったことに際して、「常勤五人が一人減った分は、あらゆる手だてを講じて、穴埋めする。」とおっしゃったことでもあります。新大医学部産婦人科のトップは、がんセンターの産科で常勤医師が減る分は、新大産婦人科の医局におられる医師を交替で勤務させること等でカバーすることが可能であり、加茂病院産科の診療を続けることは可能だと申し出られたのであります。それを平山前知事が断ったのであります。

即ち、平山前知事は、懸命に努力して加茂病院産科を存続しようとする新大医学部の申し出を拒否し、しかも責任を新大医学部に押しつけ、加茂市民を欺いて、存続させることが可能な加茂病院産科を閉鎖したのであります。また、県は、加茂病院の産科に来院する人が減ったことを問題にしておりますが、その責任は、県にあります。

加茂病院でお産をする人が比較的少なくなっている理由は、ただ一つであります。それは、加茂市とその周辺地域一帯で、病室が個室でないのは、加茂病院産科ただ一つであるということであり、他の病院は、ほとんど医師一人体制であって、緊急対応は加茂病院が最も優れているにもかかわらず、妊婦は、病室が個室である他の病院へとおもむくのであります。

しかるに県は、産科個室化の努力を全く怠ったのであります。

加茂病院は、一般の加茂病院闘争の結果、三十ベッドの療養型病床群が創られたときに、全体でも十ベッド病床数が増えており、全体の状況からみて、産科の個室化は十分に可能でありますので、産科再開と併せて、直ちに個室化を實行されますよう強く要請するものであります。

去る十月一日付で加茂市長が差し上げました質問に対し、貴台は、「県政において重要な課題だと認識しており、今後、真剣に対応したいと思えます。」と回答されました。有難く、感謝申し上げます。

貴台におかれましては、この御回答に従って、即座に県立加茂病院産科を再開されますよう、加茂市民人の署名を以って強く御要請申し上げます。

貴台の郷里の一大事であり、何とぞよろしくお願い申し上げます。

平成十六年 月 日

加茂病院産科の即時再開を求める加茂市民一同

代表

加茂市長

小池清彦

加茂市区長

草野資朗

加茂市区長会副会長

後藤信夫

同

佐々木一

同

鶴巻

同

小林昭五郎

新潟県知事 泉田裕彦様

加茂市民の皆様へ 加茂病院産科の即時再開を求める御署名のお願い

平山前知事は、加茂市長に何の協議もなく、去る十月一日、一方的に県立加茂病院の産科を休診いたしました。

新潟大学医学部産婦人科のトップが、「加茂病院産科の診療をお続けになるのであれば、あらゆる手だてを講じて協力する。」とおっしゃったのを平山前知事はこの申し出を断って、加茂病院産科を閉鎖したのであります。

産科は、加茂病院の本丸であります。本丸が崩壊すれば、今後またたくまに、加茂病院全体が廃止されることになるでしょう。

まさに加茂市民の生命が再び重大な危機に直面することになりました。
第二次加茂病院戦争のぼつ発であります。

私達は、この緊急事態に当たり、署名運動を行い、加茂病院産科の即時再開を実現し、併せて加茂病院全体が廃止されるに至ることを阻止することを決意いたしました。

このたび差し上げました内容の要請書に署名簿を添えて、私達の大きな期待の中で加茂市から登場された泉田裕彦新知事に提出いたしたいと存じます。

市民の皆様には、ぜひとも、この署名運動に御参加下さいまして、このたび各戸に差し上げました署名簿の用紙に御家族全員の御署名（やむを得ない場合は代筆も可）をお願い申し上げます。

平成十六年十月二十五日

加茂市長
加茂市副会長
加茂市副会長

同 同 同

小池清彦
草野資朗
後藤信夫
佐々木一夫
鶴巻肇
小林昭五郎

抗 議 声 明

平成16年10月1日

加茂市長 小池清彦

一方的な県立加茂病院の産科の廃止に向けた休診に対する嚴重抗議について

県立加茂病院の産科は、加茂・田上地域に存在する唯一の産科病院として、この地域の住民の安全と安心と幸福のために無くてはならない存在であり、県立加茂病院の中で最も重要な診療科である。

去る平成11年10月妥結した県知事と加茂市長の加茂病院に関する交渉においても、最も重要な問題となったのが産婦人科の存続と病床の数であった。

この交渉が妥結した時私は、県当局に対し、今後の加茂病院の運営については、地元住民の意向を尊重し、加茂市長と十分協議を行うよう要請し、県当局も異論はとなえられなかったと承知しているところである。

しかるに、県は、地元住民の意向を何ら尊重せず、加茂市長に何の協議もなく、一方的に10月1日を以って産科を休診することとした。再開のめどは立っておらず、廃止に向けての措置であることは明らかである。

私は、この県の決定を9月14日偶然知り、直ちに平山知事と高橋副知事に嚴重に抗議し、産科の診療を続けられるよう要請した。

高橋副知事は新潟大学医学部の産婦人科の教授のところに出向かれ、協力を要請されたが、産婦人科教授は、県立病院全体に配置されている医師のやりくりで対処されたいと伝え、県は休診を実行することとしたとのことである。

加茂病院の産科を休診する理由についての県当局の説明は、二転三転して甚だ不明瞭である。

5人の医師をがんセンターに配置して、そのうち3人が加茂病院の産科に交代で勤務していたのを、新潟大学医学部産婦人科ががんセンターでの1人の医師の配置を拒み4人配置となったためと述べたかと思えば、今度は医師2人体制が取れない産科は廃止すると新

新潟大学医学部産婦人科が言っていると述べる。しかし、この医師不足の時に多くの産科病院は医師1人体制であり、そんなことは理由にならないと当方が反論すると、それを撤回して、最後には加茂病院産科は来る妊婦が少ないからだと述べるに至っている。

しかし、加茂病院産科は、立派な医師と12人の助産師がいるという極めてすばらしい体制にあるにもかかわらず、最近ここで出産をする人が比較的少なくなっている理由は、ただ一つである。それは、加茂市とその周辺地域一帯で、病室が個室でないのは、加茂病院産科ただ1つであるという事実のためにほかならない。他の病院は、ほとんど医師1人体制であって、緊急対応は加茂病院が最も優れているにもかかわらず、妊婦は、病室が個室である他の病院へとおもむくのである。

即ち、加茂病院産科で出産をする人が減っていることの原因は、加茂病院自身にある。病床が余っているにもかかわらず、あえて個室化をしない加茂病院自身に責任がある。

そこで、「まず、個室化を実行して、患者数を増やすのが先ではないか」との私の主張に対し、加茂病院首脳1人は「個室化をして妊婦が沢山加茂病院にやってくると対応が大変だから困る」という趣旨の発言を行った。これは、日頃の怠慢を正当化し、努力することを拒否する許し難い暴言である。

即ち県は、自らの怠慢と無責任によって、来院妊婦の減少を招いておきながら、それを理由として加茂病院産科を休診したのである。県は、はじめから加茂病院産科を廃止することを目的として、あえて、個室化をしないことによって来院者を減少させ、それを理由として、産科を休診するという暴挙を断行したといわれても仕方がないであろう。

現在加茂病院以外の県立病院で産科があるのは、坂町病院、新発田病院、がんセンター、吉田病院、小出病院、六日町病院、十日町病院、上越中央病院であり、8つもの多数にのぼっている。産科が置かれていないのは、性格の違う瀬波病院を除けば、津川病院、柿崎病院、松代病院、妙高病院の4つにすぎない。このうち、津川病院と柿崎病院の2つは、平成12年に平山知事によって廃止又は休診となったものである。

これだけ多くの県立病院に産科があり、新潟大学医学部産婦人科がこれをバックアップする体制がとられているときに、たまたまがんセンターに配置された医師が5人から4人になったからといって、加茂病院産科を休診するという暴挙に出なければならないという事態ではない。新潟大学も一緒になっての工夫と医師のやりくりで、対処できるはずであ

る。

平山知事がもし、このたびも4選をめざして知事選に立候補されていたとしたら、このたびの暴挙をあえて強行されたであろうか。加茂病院の産科を休診するようなことは、絶対になさらなかったはずである。

私は、平山知事が加茂市民のために一生懸命頑張るとの公約を完全に破棄され、加茂病院産科の個室化の努力を全くせず、さらに、こともあろうに退職されるにあたって、加茂市長に何の協議もないまま、加茂市民と田上町民にとって最も大切な加茂病院産科を休診するという暴挙を取行されたことに強く抗議するとともに、直ちに産科の診療を再開されるよう断固として要請するものである。

また、病室が余っているにもかかわらず加茂病院の産科の個室化の努力を怠り、今後個室化する意思もなく、来院者の減少を招き、あまつさえ、それを理由として、加茂市長に何の協議もなく、一方的に加茂病院産科を休診させた山田武直病院局長は、責任をとるべきであり、同局長の即時更迭を強く求めるものである。

さらに新潟大学医学部産婦人科教授におかれては、加茂病院に産科がなくなることが、どれだけ加茂・田上地域の住民の安全と安心と幸福を大きく損なうものであるかに思いを致され、最大限の工夫をなさって下さり、直ちに加茂病院の産科の診療が再開されるよう、格段の御尽力をお願いするものである。

加茂病院は、小児科が不十分で10月1日からは、さらに外来の診療が週2日午前中だけに縮小され、泌尿器科と耳鼻咽喉科の体制も不十分である。人気の整形外科が休診になるかもしれないという話も聞く。脳外科の医師はいなくなり、全体として誠に寒心に耐えない状況にある。

それでも私は、知事と病院局を信頼して、忍び難きを忍んで来たところである。しかし、このたびの暴挙は絶対に見過ごすことはできない。加茂病院全体の大幅な充実を強く求めるとともに、重ねて加茂病院産科の即時診療再開を強く要請し、加茂市民及び田上町民の皆様と共に断固として闘うことを誓うものである。

再度の抗議声明

平成16年10月12日

加茂市長 小池清彦

新潟大学医学部の懸命な協力を拒否し、加茂市民を欺いて、加茂病院の産科を閉鎖した平山知事に対する再度の嚴重抗議について

一方的な県立加茂病院の産科の休診については、去る10月1日抗議声明を発したところである。

ところが、その後、きわめて重大な事実が判明した。

去る9月21日平山知事に電話で加茂病院産科の休診を行わないでいただきたいとお願いした際、知事は、「新潟大学医学部が医師を出さないの、診療を続けることができない。」と答えた。

ところが、産科の休診後、私は新大医学部の関係のトップの方々にお会いして、それは事実と全く違うことを知った。

新大医学部の関係のトップは、県に対し、「加茂病院の産科の診療をお続けになるのであれば、あらゆる手だてを講じて対応する。」とおっしゃったというのである。

また、新大医学部は、がんセンターの産婦人科に、5人の医師を常勤させ、そのうちの3人が加茂病院の産科に毎日24時間にわたり、交替で勤務して来たところ、このたび医師のやりくりの関係で、がんセンター産婦人科常勤が4人となったことについても、「常勤5人が1人減った分は、あらゆる手だてを講じて、穴埋めする。」とおっしゃったとのことである。即ち、新大医学部当局は、がんセンターの産科で常勤医師が1人減る分は、新大産婦人科の医局におられる医師を交代で勤務させること等でカバーすることが可能であり、加茂病院産科の診療を続けることは可能だと申し出られたのである。さすが光輝ある新大医学部。まさに「医は仁術なり。」の神髄を見る思いがする。

しかるに、こともあろうに県は、加茂病院産科の診療継続に向けて懸命に努力しようと

日 本 医 学 会 報

する新大医学部当局の申し出を断り、加茂病院産科を閉鎖したのである。しかも、みずからの責任を新大医学部に押しつけてである。

私は今まで、県から、「県立病院の医師を十分配置できず、或いは減らさざるを得ないのは、新大医学部が医師を出さないからだ。」と教えられ、それを信じて来た。しかし、このたびのことで、それは大きな偽りではなかったかと思えてならない。あらゆる診療科において、誠心誠意あらゆる手だてを講じて、懸命に対応しようとされる新大医学部の申し出を断り、すべてを新大医学部のせいにして、県立病院の医師の削減を図って来たのではないかと疑わざるを得ない。

私は、平山知事が懸命に努力しようとする新大医学部の申し出を拒否し、加茂市民を欺いて、存続させることが可能な加茂病院産科を、みずからの退職の道づれとして閉鎖したことに対し、強い憤りを以って断固抗議し、同産科の即時診療再開を強く求めるものである。

質 問 書

平成16年10月 1日

新潟県知事選候補者

様

加茂市長 小池清彦

一方的な県立加茂病院の産科の休診に際し、診療の即時再開を 求める要望と貴台に対する質問について

このたびは、知事選御出馬御苦勞様でございます。御健闘を心からお祈り申し上げます。

さて、このたび県当局は、理不尽にも、加茂市長に何の協議もなく、10月1日を以って、一方的に県立加茂病院の産科を休診いたしました。

私は直ちに別添の抗議声明を発出いたしました。

加茂病院の産科は、加茂・田上地域に存在する唯一の産科病院であり、住民の安全と安心と幸福にとって欠くべからざるものであります。

県の財政がいかに厳しく、予算を削減する必要があるとしても、あらゆるものを一律に切るようなことがあってはなりません。医療や福祉という人間の生活の根源を守る分野の水準は下げずに、むしろさらに向上させつつ、財政再建を実現することが肝要であり、新しい知事にそのための力量と手腕が求められているものと存じます。

このたびの加茂病院産科の一方的な突然の休診は、単なる1つの出来事ではなく、県民1人ひとりの幸せに対する真摯な情熱と愛情を欠き、何の知恵もめぐらさずに、ただでさえ遅れている新潟県の医療をさらに後退させようとする現県政のシンボリックな出来事なのであります。

そうした意味合いにおきまして、このたびの産科休診に対する各候補の御見解は、その候補が知事となられたときに、現実に実行される県政を推測する手だてともなろうと存じます。

つきましては、御多忙の中、誠に恐縮に存じますが、次の質問に対し、10月8日までに御回答をいただければ幸甚に存じます。

質問： 現在の県政は、医療を軽視し、県民医療は後退を続けて来たように思われますが、あなたは、県知事に御就任されましたら、県立加茂病院の産科の診療をすみやかに再開する御意志がおありでしょうか。

平成16年10月12日
加茂市長 小池清彦

**県知事選の全候補者への県立加茂病院の産科の休診
に関する質問書に対する回答について**

去る10月1日私は県知事選の全候補者に対し、別添の質問書を差し上げ、「現在の県政は、医療を軽視し、県民医療は後退を続けて来たように思われますが、あなたは、県知事に御就任されましたら、県立加茂病院の産科の診療をすみやかに再開する御意志がおりでしょうか。」という質問を發しました。

この質問に対し、6人の全候補者の皆様から、別紙のとおり回答をいただきました。

各候補者の皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

県民の皆様には、この回答を御覧いただければ有難く存じます。

県民の皆様お1人おひとりに豊かな愛情を注ぎ、県民の皆様お1人おひとりを幸せにすることのできる実行力を持った知事の誕生を願ってやみません。

加茂病院の産科の再開と遅れている新潟県の医療の向上のため、県民の皆様の御支援を心からお願い申し上げます。

回答の全文

小林 一三 候補

少子化対策は、新潟県政の重要な課題であり、その対策の一つが、安心して子供を生める環境を整備することであると考えています。

そうした意味からも、ご質問の県立加茂病院の産科の診療については、県知事に就任した場合、すみやかに再開したいと考えています。

川 俣 幸 雄 候補

県民の生命と健康を守ることは、県政の最も重大な責務であると考えます。この公的責任を放棄し、経済効率のみを追求して、地域医療の中核である県立病院の統廃合、民間委託を進めてきた平山県政に対し、怒りを禁じ得ません。本県の深刻な医療過疎に拍車をかける愚策であると言わざるを得ないものです。

今回の加茂病院産科の一方的な休診決定も、その一連の流れのなかに位置づけられるものと考えます。はじめに病院会計の見直し・縮小ありきの休診決定であることは明らかです。

そもそも病院会計の累積欠損は、減価償却費が欠損に転嫁する企業会計上のマジックであり、本来の赤字でないことは論を待ちません。その累積欠損や県財政の危機を理由として、浪費的な大型公共事業も、県民の命をあずかる病院事業も、一律に削減の対象とすることは大きな誤りであると考えます。

私は、財政危機下だからこそ、1000億円もの県営ダム建設に象徴される不要不急の大型公共事業は直ちに中止・凍結し、医療・福祉・教育などの分野の予算はしっかりと確保・拡充すべきであると考えます。もちろん、加茂・田上地域に存在する唯一の産科病院である加茂病院産科は、これを維持し、すみやかに診療を再開することが必要であると考えます。

泉 田 裕 彦 候補

県政において重要な課題だと認識しております。今後、真剣に対応いたしたいと思います。

多 賀 秀 敏 候補

少子化の進行のなかで、安心して子どもを産み育てられる地域医療の確立は緊急の課題で

あり、県立病院が地域医療の中核的医療機関として大きな役割を期待されているという認識を持っております。にもかかわらず、少子化にともなって産科医師・小児科医師のなり手が減少し、産科・小児科医療の高度化に必要な医師の確保がますます困難となっていることも事実です。県立加茂病院産科の今回の休診は、個室化の遅れという以上に、産科医療をとりまくこのような困難な状況に県が的確に対応できなかったことが背景にあると考えられます。県の医療政策の重点課題として、これらの医師確保・育成を早急に取り組まなければならないと考えます。

当面、県としては、医療事故のない高度な産科医療を実施するためには、県立病院における産科には産科医師の複数化が不可欠という認識のもとに、加茂病院に勤務する産科医師の確保を各方面に強く働きかけ、産科の診療再開に向けて最大限の努力をしてまいります。

伊藤 雄二 候補

県立加茂病院の産科は、加茂・田上地域に存在する唯一の産科病院で、無くてはならない存在であれば私が知事に就任した場合は速やかに再開致します。

「県民の県民による県民のための政治」を唱えている以上、地元住民の意向を尊重したいと思います。尚、加茂病院の個室化や医師の問題点は、今後話し合いが必要だと思います。

宮越 馨 候補

私は現在、県の病院会計全体の状況を踏まえ、県立病院の再編が必要と考えております。その方向といたしましては、県立病院の機能を「地域基幹病院化」と「僻地医療拠点化」の二本の柱で整理し、その他の病院については、民間への移管によって機能の充実を図ってまいりますのがよいのではないかと判断いたしております。

一方、政策要綱の中で私は、脱少子化対策の要の一つに、地域医療全体のテーマとして「小児・女性専門医療の充実」を掲げており、小池市長様のご意見の趣旨は十分に理解できますので、当選の榮譽をいただければ、市長様をはじめとして地域の皆様との綿密な意見交換を通じて、対処してまいりますことをお約束申し上げる次第であります。

根本的な病院改革とは別に、緊急な課題として、加茂病院産科の診療は、すみやかに再開します。

御礼

加茂市民の皆様からの七・一三水害の義援金が五百七十五万四千五百十七円となりました。

厚く御礼申し上げます。

この義援金の配分につきましては、甚大な被害を受けられた三条市に五百五万四千五百十七円、中之島町に七十万円をお贈りさせていただきたいと存じます。

去る七月十三日の三条市などを襲った大水害に対しまして、加茂市では数々の支援活動を行うとともに、全市民をあげて各世帯封筒募金などの義援金募集に取り組んでまいりました。

市民の皆様から、お寄せいただいた義援金は、次のとおりとなりました。

御協力に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

各世帯封筒募金 四百五十八万三千二百二十三円

各団体等募金 九十七万二千百円

各団体等募金の内訳（敬称略）

新潟中央短期大学 五十二万六千二百三十二円

加茂市連合婦人会 十七万二千二百七十円

加茂鉄工業協同組合 十二万五千元

加茂商工会議所青年部 五万七千五百五十円

加茂中学校第十三回卒業還暦同年会

三万四千五百三十一円

加茂市生活改善グループ協議会 二万円

北沢江恵子（一部募金箱） 一万二千九百二十一円

三重県桑名市 伊藤 清 一万円

玉木フードセンター（募金箱） 五千二百八円

（有）田辺木工所 五千円

加茂商工会議所（募金箱） 三千三百八十八円

市施設募金箱 十九万九千九百九十四円

合計義援金額

五百七十五万四千五百十七円

市制施行50周年記念

第一回

加茂市菊花展

～錦秋の越後路・菊～

管物三幹・厚物三幹・管物単管・厚物単管・懸崖・数咲き・盆栽作り・福助



11月7日(日)～11月28日(日)

午前9時～午後4時

冬鳥越スキーガーデン特設会場

主催:加茂市 / 共催:加茂郷菊花同好会・須田菊花会

六十五歳以上の方々への インフルエンザ予防接種を 無料で実施しています。

加茂市では、来年三月三十一日
まで、六十五歳以上の方々のイン
フルエンザ予防接種を無料で行っ
ています。

インフルエンザが流行する前に
かかりつけの指定医療機関などで
よくご相談して、予防接種をお受
けになることをお勧めします。

実施期間 来年三月三十一日まで（インフル
エンザが流行する前に受けられることをお
勧めします）

対象者 六十五歳以上の方（六十歳以上の
方で心臓やじん臓、呼吸器に特に重い病気
のある方も対象となります。なお、対象と
なるかどうかわからない場合は、かかりつ
け医または、健康課にお尋ねください）

料金 無料（ただし、加茂市、田上町
以外の指定医療機関で接種した場合、いつ
たんその指定医療機関に個人負担金千五十
円をお支払いいただき、後日、加茂市役所
健康課で手続きしていただくと個人負担金
をお返しします）

接種する当日に持っていくもの
◎ 予診票（必ず記入してください。予診票は
指定医療機関、市役所、公民館、中央コミ
ュニティセンターに用意してあります。イ
ンフルエンザの予防接種を受けるために大
切なものですので、よく読み、正しく記入
して、指定の医療機関にお持ちください）

◎ 保険証

問い合わせ 市役所健康課衛生係

（電話五二一〇〇八〇内線一六二）

高齢者のインフルエンザ予防接種 を実施している指定医療機関

指定医療機関		電話番号
加 茂 市	県立加茂病院（内科外来） ※加茂病院は接種日が決まっています。詳しくは病院へお尋ねください。	52-0701
	青柳医院	52-9511
	いからし小児科アレルギークリニック	53-2250
	薄木医院	52-1261
	大谷内科医院	52-0236
	小柳医院	52-0330
	監物小児科医院	52-0800
	小池医院	52-1038
	小池内科消化器科クリニック	53-3355
	小林医院	52-3042
	桜井医院	52-1827
	徳友医院	53-0167
	中村医院	52-0095
	ながば医院	53-0751
	二宮医院	52-1520
	にのみや内科クリニック	57-0770
	服部クリニック	53-4680
	堀内医院	52-0953
	本間医院	52-8936
	皆川小児科医院	53-3530
みながわ整形外科医院	53-3877	
吉村医院	52-1037	
吉田内科医院	57-7511	
鷺塚医院	52-2054	
わたなべ医院	53-3850	
田 上 町	今井医院	57-2139
	須田医院	41-5025
	田上診療所	57-5015
	田中医院	57-2024
	星野内科医院	41-4141

- ★ 予診票は各医療機関で準備してあります。
- ★ かかりつけの各医療機関で予約してから受けましょう。
- ★ 当日は、予診票と保険証および健康手帳をお持ちの方はご持参ください。
- ※ 前号では「青柳医院」が欠落していました。謹んでお詫びして訂正いたします。

水平線までつづく大地とアムール川



加茂市国際交流協会
コムソモリスク・ナ・アムール市訪問中学生代表団

八月二日から九日までの八日間、ロシア コムソモリスク・ナ・アムール市を訪問した加茂市中学生代表団の思い出を九月号から掲載しています。今回は前号に引き続き六名の生徒と、引率された加藤先生から見た生徒の交流の様子をご覧ください。

ロシア

そして友好



加茂中学校教諭
加藤隆子先生

市長さんをはじめ、多くの方々の見送りでコムソモリスク・ナ・アムールの友好親善に行ってまいりました。今回の訪問の機会を与えてくださった国際交流協会の皆さんに心より感謝申し上げます。

コムソモリスクに到着したその時から、パトカー先導、寝ずの番の兵士や婦人警官の警備等、徹底した安全への配慮は頭の下がる八日間でした。

コムソモリスクでの十二人の代表団の生徒たちの堂々とした行動、すばらしい表現力は、立派に親善を果たしていました。特に生徒たちの混声の歌声は、言葉を越えた深い交流だったと

思います。各訪問先で、堂々と発表し、大歓声が返ってきた時は、とてもうれしかったです。またレストランで私たちの食事を作ってくださる方々に代表団は「日本の歌」を心を込めて歌いました。こういう形で、思いがけず市民の方々まで交流するなど、音楽が国境を越え、一体感となる瞬間を味わうことができました。

後半のキャンプ場では、さらに生徒たちは伸び伸びとロシアの子どもたちと交流し、もともとと表現力のある子どもたちは、すぐにディスコダンスにも溶け込みました。キャンプ場での別れは、涙の別れとなり、とても感慨深いものとなりました。

最終日、夜遅く、食事も終えて、ホテルに戻ると一日目に訪問し交流した、第一番学校の校長先生はじめ生徒たちと先生方が最後のお別れにかけつけてくださり、交流のすばらしさと大切さをしみじみ感じ、ロシアを



後にしました。このロシアの訪問で体験した一つひとつの全てのこと、生徒たちの心からいつまでも消えることなく大切に残ることと思います。

ロシアでの夏



葵中学校3年
川崎直弥さん

八月二日、僕達代表団はロシアへと旅立った。空港から出て、一番最初に思ったことは「蚊がでかい」。あの目で簡単に見つけられる蚊は、一生忘れられないだろう。その後、バスに乗り込み、コムソへと出発した。

到着は、朝の五時頃だった。日本の十月の夜くらい寒かった。その日は、子供創作宮殿へ行った。子供達は、元気一杯で、僕達と一緒にゲームをした。歌も唄い、とても楽しめた。

その次の日は、国際センターや第一学校など人と接する場面がとて多かつた。みんな積極的に、ロシアはすごいなあと感じた。明日からはキャンプ地だ。八月五日からのキャンプ地では、たくさんのすばらしいこと

があった。アムール川のクルージングでは、風を切って走り、とても爽快で楽しかった。アムール川は思っていたより大きくて、海のようにだったので驚いた。それから、キャンプ地で夕食後に行われた歓迎コンサートは、本当に楽しかった。たくさん人のロシアの歌やおどりをみる

ことができて、たくさんの人と友達になることもできた。日本に帰って、町や家がとても小さく思えた。そして改めてロシアの自然の大きさを感じた。すごく楽しかった一週間。それがロシアでの夏だった。

ロシアでの思い出



若宮中学校3年
石田涼さん

八月二日午前九時半ごろ私はロシア訪問に備えて長めの睡眠から起床し、準備をした。十二時に市役所に集合し、大勢の人達に見送られて出発した。

二時間かけてロシアのハバロフスク空港に着いた。その後、夕食を取り、コムソリスクに向かった。八時間のバスでの移動が終わり、コムソリスクに



着いた。その日は、市役所、博物館、子供創作宮殿、ガガーリン公園に行った。

あつという間に三日間が過ぎ、いよいよ待ちに待ったキャンプ地コムソスに行く時がきた。コムソスは、二年前の人達のロシアの思い出を見たら、全員コムソスのことを書いていたので、今回の旅で一番楽しみにしていた。

コムソスに行くの大勢のロシアの子供達が歓迎してくれた。ロシアの子供達は、とても積極的に友好的で、すぐに何人かと友達になれた。コムソスでの三日間もあつという間に過ぎ、ロシアでの七泊八日の旅は、終わった。

今回の旅で、日本ではできない体験をたくさんしました。そして、ロシアの人のあたたかさを知ることができました。いつか機会があったら、また

ロシアに行きたいと思います。ロシアの思い出



加茂中学校3年
大泉瞳さん

私がロシアに行くと、一番楽しかった所は、キャンプ地「コムソス」です。そこは、ロシアの子どもたちが親元を離れて三週間程過ごす施設でした。

最初、そこに着くと、私たちは盛大な拍手で迎えられ、歓迎式が開かれました。私はレナという十三歳の女の子のパートナーになり、仲良く遊びました。そしてコンサートの際は、途中で私たちがステージに立ち、何曲か歌ったり、加茂松坂を踊りました。すると、子どもたちがとても喜んでくれたのでうれしかったです。最後の夜は、キャン

思い出のキャンプ地



葵中学校3年
桑原達也さん

アトゥリーチナ(最高)！この八日間のことを一単語で表せ



ンプファイヤーと花火の後、建物の中でディスコでした。そして別れの時、私は泣きながらレナと手紙交換の約束をして、キャンプ地を後にしました。

この他にも、いろいろな所を訪ねたり、たくさんの人たちと出会いました。私にとってそれは一生忘れられない思い出になりました。また機会があったらではなく、絶対にもう一度来たいと思いました。



と言われたら、そう答えるであらう。今回のロシア訪問は私の考え方を根本的に変えた。そして、忘れられない思い出として深く脳裏に焼き付いた。

ロシアの国土について受けた第一の印象は、木の海だった。航空機内の窓からは水平線の彼方まで草木が茂り、その大地をほぼ二分するかのようにならぬスケールでアムール川が走っている景色を望むことができた。着陸後も受けた印象はおなじ、林の中に建造物が埋まっている様だった。

最も心に残ったのは、キャンブ地で過ごした日々だった。ロシアの子供たちは積極的にたくさん思い出をつくることのできた。今でも先程のことのように鮮明に頭の中を駆け巡る。

ロシア訪問を通して多くのことを学び、考えさせられた。友



達について改めて見直すことができた。自然の大切さを学ぶことができた。そして、日本人が豊かな生活の中で忘れかけているものを見つけていることができた。

最後に、この訪問の機会を与えてくださった方々、ともに訪問した方々、本当にありがとうございます。ロシアで過ごした日々はずっと忘れません。

もう一つの故郷



須田中学校3年
丸山圭子さん

私にとって今回のコムソモリスク・ナ・アムール市への訪問は、とても有意義なものになりました。

新潟空港を発って約二時間程でハバロフスク空港に到着し、私は初めてロシアの土地を踏みました。やはり日本とはどこか違う雰囲気が漂っていて、ワクワクしたのを覚えています。

コムソモリスク市へ行って、私はたくさんの方々と出会えました。別れました。そしてたくさんの方々の心を感じました。

がら、楽しい訪問ができました。

そして今回は、何かと歌を歌う機会が多く、レストランなどでも歌ったりしました。そして、その度に返ってくる温かい拍手に嬉しくなりました。

ロシアの人達とは、まるで親や兄弟のように接することができて、コムソモリスク市が故郷のように思えるほどでした。

そして、最後に。お世話になった皆さんや、この訪問に際して助力してくださったすべての皆様に感謝します。

また、行きたい



葵中学校2年
樋口遥さん

「また、行きたい」、そう思ったロシア訪問。

どうして、そう思ったかという、友達がたくさんできたからです。キャンブ地で、いつも一緒にいてくれたアリナやキーデイ。アリナはキャンブ地で行動する時にいつも一緒でした。

デイスコダンスの時もキャンブ地でのコンサートの時は、私の隣にいてくれました。キーデイとは宿舎で遊びました。みんな



でおにごっこをしたり、アムール川に行って、アムール川に石を投げたり、始めはうまく投げられず、三回が最高でした。何回やっても三回。その時、キーデイが私にジェスチャーで投げ方を教えてくれました。私は持ち方・投げ方を見よう見まねで投げた。十五回くらい跳ねた。もう、うれしくてうれしくて、私は何回も投げ続けました。

私は泣きました。バスが発発すると、アリナやビカ、みんながバスを追いかけて来ます。私は後ろの席でみんなの姿が見えなくなるまで手を振りました。私はこの別れの時に、「また行きたい」と、思いました。

二回にわたって掲載した「中学生代表団コムソモリスク市訪問記」は、これで終わります。



毎年冬が近づくとインフルエンザが気になります。ワクチンをうったほうが良いのか、うつほどの価値があるのかわからない、保険がきかないから値段も高いし、医療機関では待ち時間もかかるし、と皆さんお悩みになることも多いはず。今回、インフルエンザワクチンは受けるべきかどうかお話しします。

インフルエンザワクチンは うったほうがお得？

まず、インフルエンザが大流行した年の日本人の「平均寿命」が短くなっていることをご存じでしょうか？ 思ったよりたくさんの方がインフルエンザの直接的、あるいは間接的影響でお亡くなりになっているのです。

インフルエンザは「普通のカぜ」とは違います。発熱、頭痛、筋肉痛、だるさ、といった全身の症状が強く出る強力な伝染性感染症です。高い熱が数日続き、非常につらい寒さや全身ののだるさのため、食事が十分に取れなくなり、体が弱ることが多いの

です。特に、持病のあるお年寄りや小さい子どもさんが重症になりやすく、中には不幸にしてインフルエンザで亡くなる方もいますし、インフルエンザが原因でもととの病気が悪化してお亡くなりになることも多いのです。

この大変な感染症であるインフルエンザの予防としては、唯一のインフルエンザワクチンの効果を見てみましょう。以前は学校の児童や生徒さんが受けるものであり、あまり効果も期待できないと思われていました。

インフルエンザにもいろいろな種類があり、ワクチンに選んだ種類と違う種類が流行すれば、全く効かないということになります。

ところが最近のインフルエンザの流行は、あらかじめ種類の予測が可能となり、インフルエンザワクチンの当たりはずれがほとんど無くなりました。

現在のワクチンの発病阻止率は六十五歳以下の健常者では七〇〜九〇%くらいであると考えられています。かなり高い有効率です。また、六十五歳以上の

高齢者では重症化しやすいのですが、発病阻止率は四〇〜五〇%程度、死亡阻止率は八〇%以上になります。高齢者では重症のインフルエンザにならないことが大切ですので、大変有効と思われまふ。小児においては明らかに有効であるという研究結果はまだありませんが(有効率七七%〜九一%と発表している研究者もいます)、喘息などの慢性の持病がある小児ではうけるべきであると考えられます。

現在のワクチンは不活性ワクチンなので、副作用(副反応)に大きなものではありません。注射をした腕が赤くなったり、腫れたりすることもありますが、二〜三日で消えてしまいます。インフルエンザの流行する季節は、毎年一月ころからです。ワクチンをうってからは、インフルエンザの免疫抗体が増えてくるのに二週間以上かかりますので、ワクチンは十月中旬から十月中旬までにうつのが良いといわれています。

加茂市にお住まいの六十五歳以上の方は補助が出ており、無料です。接種をうけることができます。

今年も積極的にワクチンの接種を考えてみてはいかがでしょうか。 (加茂市医師会)

総体結果



卓球

期日 九月十九日

会場 下条体育センター

〔シングルス〕▼中学生男子①青柳英友(葵中)②長谷川研人(同)③

泉田典樹(同)桑原達也(同)▼中

学生女子①金子歩未(若宮中)②平山真希(同)③中野萌子(同)酒井

悠莉(七谷中)▼高校一般男子①大

滝研司(加茂農林高教)②大関翼

(加茂農林高)③長沢真(加茂卓球

クラブ)番場正人(同)▼高校一般

女子①大泉沙織(加茂高)②武石歩

惟(同)③白井愛美(加茂暁星高)

近藤亜紀(加茂高)

〔団体戦〕▼中学男子①葵中B②葵

中A③葵中C、若宮中A▼中学女子

①若宮中▼高校一般男子①加茂卓球

クラブ②加茂農林高A③加茂農林高

B、加茂農林高C▼高校一般女子①

加茂高



サッカー

期日 九月十九日、十月十一日

会場 陸上競技場

〔中学生の部〕①加茂FCU-15②葵

プロフェッショナル③アルビレック

ス新潟・加茂Jユース

〔高校・一般の部〕①南葛FC②酒豪



ゲートボール

期日 九月二十二日

会場 すばしく加茂

優勝 友好会Bチーム

準優勝 友好会Aチーム

三位 ゆきつばきAチーム



柔道

期日 十月二日

会場 下条体育センター

〔個人戦〕▼小学生三・四年生の部

①志田朱穂(石川小四)②浦井友希

(加茂小三)▼小学生五・六年生の

部①齊藤大介(須田小六)②山田雅

也(下条小六)③金子桂太(石川小

五)、泉田隼希(加茂小五)▼中学

生一・二年生の部①広野正樹(須田

中二)②川口貴也(加茂中二)▼高

校一般男子の部①高山博史(加茂農

林高二)②大桃俊也(同)③齊藤諒

(同二)、萩根昌宏(同二)

〔団体戦〕▼高校一般男子の部①加

茂農林高C②加茂農林高A③加茂農

林高B

会③マイナース
〔シニアの部〕①嵐南ウォータース
②加茂FCシニア

宮寄上の鉱山

「大なでまくり鉛山」経営者の変遷

幕末期、宮寄上の鉛鉱山は、下田郷の鉛と並んで村松藩財政のドル箱であった。今でも小乙川の上流には、廃鉱になった鉱道や選鉱場の跡があちこちに残り、かつての繁栄の跡をとどめている。

しかし、鉱山の経営には、多額の資本を必要とするともに

「山師」と呼ばれたことく、その成功と失敗は紙一重であった。

ここでは、宮寄上の「大なでまくり鉛山」の盛衰にかかる男たちの夢のあとを追ってみよう（以下「加茂市史」）。

この鉱山は、嘉永二年（一八四九）に宮寄上村の定助により

発見された。ところが、鉛の鉱石に銀が含まれているというこ

とで、嘉永五年に村松藩役人立ち会いの下で試掘を行い、その後、藩直営の「御手山」として

経営されていた。しかし、この経営はうまくいかなかったとみ

え、村役人を介して経営者を募っていた。

写真の史料は、安政二年（一八五五）六月、宮寄上村の山師伴蔵の「大なでまくり鉛山」共同経営についての断り状である。

「竹七と合山（共同経営）」にするように村役人様からいろいろ話もあつたが、私は新ヶ沢鉛山で取り込んでおり、この山の見

加茂の風土記



「鉛山合山断り状」
（宮寄上）中野六左衛門家文書

込みも少ない」というのがその理由である。同日付で宮寄上の

鉱山世話方・六之丞も「時節柄多忙で人夫も集められず、小屋

普請の世話くらいはできるが、竹七との合山は無理」との文書

を村役場へ提出した。彼らが共同経営を拒否したのは、文字ど

おり鉛山が盛況のため、他に手が出せなかったのか、あるいは

竹七に対する問題があったのかは不明。

竹七は、会津若松の住人で姓を二瓶と名乗る宮寄上出身の山師。嘉永六年に下田郷北五百川

村の拾石銀山を請け負い、銀山世話役として頭角を現した。翌

七年七月には、勤務出精につき村松領内の通行には公用として

無料で伝馬を使うことを藩から許可された。

「大なでまくり鉛山」は、その後二瓶竹七単独で経営されていたが、安政四年の春に休山となり、そのまま放置され鉱道内

も大破していた。その後、どのような経過をたどったかは明らかでないが、さきに共同経営を断つた宮寄上村の伴蔵が経営を

引き継ぐことになったと、安政四年七月末の村松藩役人から七

谷組大庄屋山崎徳左衛門宛文書にみえる。

（長谷川昭一）

あきんど

7・13水害義援金

七月に起こった大水害に対し

て、加茂市では数々の支援活動を行ってきました。その中で各

世帯封筒募金にも取り組んでまいりました。その集計結果は、

16ページでもお知らせしました。大勢の市民の皆様のご協力に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

各世帯封筒募金 四百五十八万三千二百二十三円

各団体等募金 九十七万二千二百円

市施設設置募金箱 十九万九千九百九十四円

合計義援金額 五百七十五万四千五百七十七円

「恭平くんを救う会」への募金 肺移植治療が必要な外山恭平君を救うため、市では募金活動を行いました。募金は新潟県市

長会を通じて「恭平くんを救う会」へ募金されました。大勢の市民の皆様のご協力に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

訂正とおわび

■広報かも九月号（No.579）

五ページに掲載しました「高齢者のインフルエンザ予防接種を実施している指定医療機関」で「青柳医院 ☎52-9511」が欠落していました。訂正しておわびいたします。

十一ページの総体結果・空手道大会組手・高校生男子の部で「①齊藤真人（加茂農林高）」さんの名前が間違っておりまし

た。訂正しておわびいたします。

人口のうごき

10月1日現在

世帯 9,908 (+ 7)

人口 32,812 (- 7)

男 15,894 (+ 3)

女 16,918 (-10)

() 内は前月比

(9月異動分)

出生 24(男13女11)

死亡 23(男12女11)

転出 51 転入 43